

2020年(R2年)

5月

No. 339

ひとははつゆり

(ホムパ-ツド) http://hitoha-fukushi.com (メルパド) honbu@hitoha-fukushi.com



社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

今年の春、新型コロナウイルスの話題に振りまわされているのは人間だけのようです。車窓から見える景色は、いつもの春爛漫！ひとはの周辺も、満開のさくら、ピンク色がきれいな桃の花、菜の花の黄色もしっかり存在感を主張し、真っ白なこぶしの花も、いつもの美しさを私たちに見せてくれました。お花見だけはしたくて、ひとは農園の桃の花の下で日向ぼっこをしながらおしゃべり三昧。5月に入るとさくらんぼがたわわに実り、植物たちのたくましさを感じます。

いつもならゴールデンウィークをどう過ごすか、楽しい話題で持ちきりですが、今年こそはそうもいきませんね。そんな中ひとはにと、大きな出来事があります。安芸高田市吉田町の道の駅「三矢の里あきたかた」内に、糸縄文あいつ「ベジパーク店」がオープンしました。自慢のジェラートをより多くの皆さんに楽しんでもらうと同時に、ひとはの事を紹介するスポットとしても大きな役割を担う場所になりそうです。理念の中で「ひとは福社会は『誰でもが共に暮らせる社会』を目指す文化の発信基地となり」と謳っています。ベジパーク店がその一つとなるよう、自覚と責任、そして笑顔をもって活動を進めていこうと意気込んでいます。

(ひとは工房 伊藤 千代子)

★ オープンに伴い、今回も評議員の茅野さんにご尽力いただきました。★

いつもご支援ありがとうございます。2020年9月に、ひとは福社会は35周年を迎えます。そこで、記念号を発行しようと言画しています。後援会費の一部を記念号の発行費用とに使わせていただきたく、この場を借りてお願い申し上げます。冊子という形ではありませんが、秋頃の完成を目指し、通信と共にお届け致します。
(編集委員 エリ)

あたらしく入ったひとはの仲間たち(スタッフ)

なまえ 山崎 志歩

所属 ぴあ・くらぶ

最近笑った話

私の妹は録画したバラエティ番組を何度も見て、いつも同じところで笑っています。私はその姿を見て「よく同じところで何度も笑えるなあ」と思いつられて笑ってしまいます。

なまえ 森本 はるの

所属 共同ホームひとは

最近笑った話

大工をしている父に棚を作ってもらおうと、「白めの板で」と注文すると、父が白目をむいて話を聞いていました。しょうもないに、不覚にも笑ってしまいました。

2019年度 ひとは福社会後援会会計報告 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)

収入の部		支出の部	
会費 408名(法人含む)	1,666,240	ひとは福社会へ寄付	1,000,000
冊子収入	42,439	役員費(切手代、手数料)	511,048
利子	0	事業部工賃(いきがい)	35,000
前期繰越金	102,095	事業部工賃(ひとは窯)	35,000
		事業部工賃(あつぷ)	35,000
		印刷代他(こころえ帖含む)	91,762
		小計	1,707,810
		当期繰越金	102,964
合計	1,810,774	合計	1,810,774

担当: 筒川

し

「Aさんのこの頃」

4月から、小学2年生になったAさん。1年生の3学期になった頃、数を教えるようになってきました。1〜10まで上手に教え、数字をなぞり書きできるように。春休みの自由遊びの時、カレンダーをめくりながら数字を言っていました。そして朝の会では、リーダースタッフが今日の日にちを言うと、くり返して言う姿が見られました。楽しく学び、身につけているAさんのこれからが楽しみです。

(ひとはぼろこ 高松悦子)

と

「地域の方の温かさ」

ひとはでは公用車を使用する際、周りの車への注意喚起も含め、明るい時間帯でもヘッドライトを点灯して運行しています。

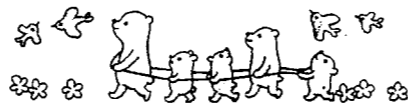
ある日、西尾達に行く為運転をしていたところ、信号で停車すると前の車から「お〜い！左のライト切れとるで〜！」と身を乗り出して教えてくださる方が。ひとはの近所に住む重村さんです。一瞬のやりとりではあったのですが、ホッとする一場面であり地域の方の温かさを感じた出来事でした。重村さんありがとうございました。

(ひとは作業所 越智修彦)

は

の

「僕には僕なりのやり方がある。」



「いつも迎えが遅いんだよ。待ちよるんじやけん。」私を見るなり、苦言を呈する重慶さん。朝の通院後、送迎の待ち時間に不満があるようだ。「のろのろ運転しよるんじやない？」

「私も重慶さんの通院が長引いた時には待ってますよ。お互い様ですよ。」と返すものの、表情は曇りたま。すると「僕には僕なりのやり方がある。」と。

「私にも私なりのやり方があります。」と同じように言ってみたが、お互い一方通行のようになってしまった。

「もう一人送迎に乗る人が昨日からショートステイじゃけん、迎えに行かんていいよ。」と、私が気付いていないことを見越して、最後に助言。又しほりに重慶節を聞いた日であった。

(事務局 竹内宏美)

日

々



「話をすること」

ひとはで館でアルバイトを始め、もうすぐ1年が経とうとしています。最初は慣れない環境に戸惑いもあり、さららの仲間ともなかなか会話ができませんでした。けれど最近ではお互いの間を隔てていた心の壁が低くなってきたように思います。勤務が一緒になることが多い大迫直樹さんや服部さんは、よく声をかけてくださいます。学生時代はどんなクラブに入っていたか、休みの日にはDVDを観ること、好きなアイドルのコンサートに行きたい話など。お話をされている時の考案があまりに楽しそうなので、私もつられて笑ってしまいます。会話を通し、さららの仲間と少しずつ心の距離が近づいていくのを日々感じています。

(ひとは工房 山田琴)

「増長さんの呼び方 PART.2」

増長さんは私のことを「おかんさん」と呼びます。しかし、「おかん」の「ん」の所をのばして呼ぶため「おかーさん」と聞こえます。はじめは「おかーさん」って誰のこと？とスタッフも困り顔。私の名前を呼んでいるとわかったときには「なるほど〜“おかんさん”で“おかーさん”！」スッキリした瞬間でした。増長さんにとって、「お母さん」と語呂が似ているため呼びやすかったのか、なぜ頭に「お」がついたのかは不思議に思うところ。"とらお"(松浦涼太さん)に続いて、「おかんさん」を拝知しました。

(共同ホームひとは 菅凌太)

「春も連れて」

彼岸の頃、聞き覚えのある声に、もしやと思い行ってみると、軒下につばめが2羽、ふっくらとした胸元を見せて、止まっていました。働き者で、子育て上手な仲良し夫婦。家庭円満のおめでたいつばめさん。今年も、我が家に来てくれてありがとう。嬉しいです。

(食事部 原加代)



編

集

後

記

新型コロナウイルスの影響で3月から趣味の吹奏楽もお休みになり、楽器を吹けない日々が続いている。もちろん演奏ができないことも残念だが、もっと残念なのは毎週会っていた人達に突然会えなくなり、それがいつまで続くかわからないことと気付いた。先日、吹奏楽の仲間たちと、流行りの「オンライン飲み会」をした。画面越しでもお互いが元気であることが分かり、少しは気持ちが晴れた。

(白井くみこ)